

須賀川市では、すべての小・中学校において

「小中一貫教育」に取り組んでいます

～ 平成28年 須賀川市教育委員会学校教育課からのお知らせ ～

「小中一貫教育」導入の背景

須賀川市では、これまでに、学習面・生活面における共通課題の解決に向けて「小中連携」の取組を進めてきました。しかし、学んだ知識や技能を用いて問題解決にあたる能力の伸び悩み、中学校で急増する不登校等の生徒指導上の問題などの解決に向け、9年間を見通した系統的な教育実践をより充実させることが必要となり、平成26年4月より「小中一貫教育」を導入することにいたしました。

「小中一貫教育」須賀川モデルとは

「小中一貫教育」とは、小・中学校が目標を共有し、その達成に向けて義務教育9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づいて行う系統的な教育のことです。

須賀川市の取組は、

- 1 すべての中学校区の小・中学校において（※1）
- 2 9年間で目指す児童生徒像や解決すべき教育課題を保護者や地域住民との間で共有し、
- 3 学習指導要領の目標・内容に基づいた系統的な教育課程の編成を原則とし、
- 4 学習・生活の9年間一貫した指導をそれぞれの専門性を生かし、力を合わせて実施するもので、これを総称して“「小中一貫教育」須賀川モデル”と名付けました。

現在、各中学校区では、設置条件や実態に応じて様々な取組が始まっています。まだ歩み始めたばかりの「小中一貫教育」ではありますが、交流を通して互いに刺激を受け合う児童生徒には、憧れや夢、自信などが芽生えています。また、小中学校教職員は計画や指導方法を共に話し合い、実践することで、「わたしたちの児童生徒」のために協働する意識が高まってきています。

須賀川市では、成果のあった取組はこれからも継続し、不足していることは補いながら、これからも各中学校区の特徴を生かした須賀川モデルを推進していきます。



＜陸上練習で中学生が小学生を指導＞

＜小・中学校合同のボランティア清掃や交流活動＞

「小中一貫教育」須賀川モデルは、児童生徒の自尊意識を高め、一人ひとりの児童生徒の個性の伸長と生きぬく力の育成を目的として行うものです。「子どもを真ん中」に据えた様々な取組を通して実感するのは、学校間だけではなく、家庭・地域とのつながりを深めていくことが重要であるということです。

家庭・地域の方々には各学校で行われている教育活動の情報発信をするとともに、これからも小・中学校の先生方が手を携えて児童生徒の教育にあたっていただけますようお願いいたします。

※1 須賀川市には10の中学校区があります。学校の設置条件で「施設隣接型」（第三中学校区、稲田中学校区）や、「施設分離型」（第一中学校区、第二中学校区、西袋中学校区、小塩江中学校区、仁井田中学校区、大東中学校区、長沼中学校区、岩瀬中学校区）という分類をしています。なお、平成30年4月には施設一体型の稲田小・中学校を開校する予定です。